



2019年6月28日

ブラジル:2019年0.8%成長実現への高いハードル

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

ブラジル銀行が2019年実質成長率見通しを+0.8%に引き下げ

ブラジルの中央銀行にあたるブラジル銀行は6月27日、2019年の実質GDP成長率見通しを+0.8%に引き下げた。3月末に発表された前回見通し+2.0%から1.2ポイントの大幅下方修正である。

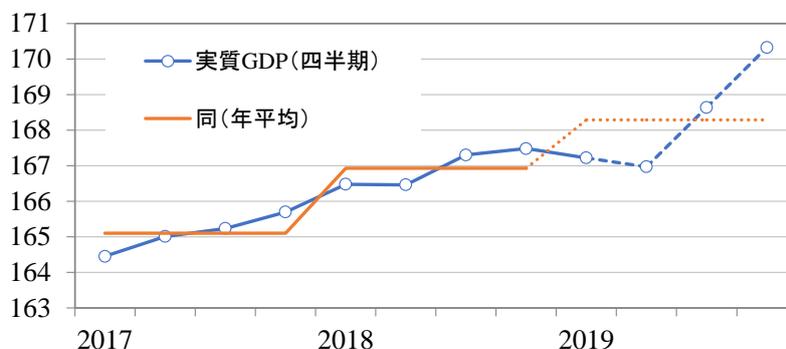
1-3月期の実質成長率が前期比-0.2%に終わり、4-6月期も成長率は低迷している模様だ。6月17-18日に開催された金融政策委員会の議事録によると、委員らは「第2四半期（4-6月期）も第1四半期（1-3月期）と近い結果になるだろう」と述べている。

この結果、2019年の見通しを+0.8%へ引き下げたわけだが、議事録は「+0.8%成長予測はブラジル経済に必要な改革や調整が行われ、今年の後半は経済活動がいくぶん回復することを前提にしている」と、条件付きの見通しであることを認めている。

+0.8%成長はなお高いハードル

そこで、今後の見通しについて簡単な試算をしてみよう。4-6月期が前期比並み（-0.15%）の成長率になるとして、2019年の成長率が+0.8%になるためには年後半の成長率が+1.0%になる必要がある（図1）。

図1. ブラジルの実質GDP



(注) 点線、破線部は見通し。

(資料) ブラジル統計地理情報院

過去2年のGDPの軌道と比べると、2四半期連続1%成長がいかにか急角度であるかが分かる。

そして、今後の経済情勢はどうか。米国経済の減速、アルゼンチン経済の不況継続、米中摩擦、中東のリスク、英国のEU離脱問題と、外部環境の不安は依然として高い。国内ではボルソナーロ政権の支持率が低下中である。財政赤字の拡大で、一段の財政引き締めが求められている。年金改革は、実現できても効果を期待できるのは数年先である。

ブラジル経済が急回復する材料は、なかなか見当たらない。0.8%成長ですら実現することは容易ではないだろう。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。